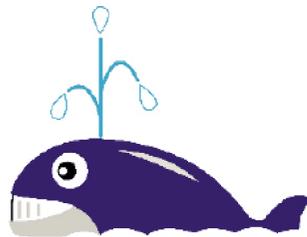


## A 型 肝 炎 予 防 接 種

A型肝炎は飲み物や食べ物を介して発症する感染症。日本では生牡蠣による食中毒がときどき起きています。

東南アジアなど、いわゆる発展途上国では多数の発生があり、海外旅行では生ものは摂らないようにご注意ください。長期に滞在する時にはワクチン接種をお勧めします。



### 予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

- 受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知ってほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。
- 健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。
- 前日は入浴して、体を清潔に。
- 予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。
- 母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）
- 接種の会場で、体温を測り、記入します。
- 予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見ていてください。
- 接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。



A型肝炎はA型肝炎ウイルスによっておきる感染症です。このウイルスは便から排出され、このウイルスで汚染された食べ物を食べることによってうつります。自然にA型肝炎ウイルスが集まった貝（とくに牡蠣）を生で食べたりして、うつります。十分に加熱することで通常は予防できます。

約1か月の潜伏期間の後に、発熱や倦怠感と黄疸（おうだん）があらわれて発症します。多くは数週間くらい入院で後遺症もなく治ります。気がつかない程度に軽いこともあります。衛生状態が良くなったので、自然感染の機会が激減し、60歳代以下の日本人のほとんどは免疫を持っていません。そのため免疫をつけるにはワクチンが有効です。

十分に加熱した食べ物からはうつりませんが、ウイルスがついた手で食べ物に触るとうつる可能性もあります。アジア諸国などではA型肝炎は常に流行しています。海外旅行や長期滞在時には子どもでも接種が強くすすめられます。

## A型肝炎の予防接種

任意接種

使用ワクチン：エイムゲン（皮下注または筋注）

接種回数と間隔

3回接種

1回目と2回目は2～4週間隔

3回目は初回接種後24週間を経過した後に追加接種

## 予防接種を受けたあとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合の悪くなることもあります（アナフィラキシー・ショック）。万一のために15分程度は医院の中にいていただき、そのあともしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしててください。（その場で適切な処置をすれば、最悪の事態はさげられます。）

A型肝炎ワクチンは不活化してあるワクチンです。

次に受ける異なるワクチンとの接種間隔は、とくに制限はありません。

## A型肝炎ワクチン

- ①注射したところは、適度にもんでください。
- ②今日は激しい運動は避け、普通の生活をしてください（**入浴はかまいません**）。
- ③接種したあと、まれに丸1日以内に熱をだすことがときがありますが、ほとんどはそのままでおさまります。
- ④注射したところが、赤くなったり、はれたりすることがありますが、そのままでも数日でおさまります（程度の強いときには受診して下さい）。
- ⑤小児と大人の注射量は同じです。